

平成23年度 北九州市立飛幡中学校 学校自己評価書

NO.	中長期目標 (重点目標)	短期目標 (重点課題)	指標 (具体的な方策)	評価	保護者 アンケート	評価	生徒 アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
1	基礎学力を確実に身に付けさせる。	基礎・基本の定着及び学習意欲を喚起する学習指導の取組を充実する。	朝自習・総合的な学習の時間を利用して、漢字力の向上に取り組む。「漢漢チャレンジ」	3.6	子どもは、宿題をきちんとするなど、家庭学習の習慣が身につけている。	2.9	宿題をきちんとするなど、家庭学習の習慣が身につけている。	2.9	1, 2年生は学期に1回、3年生は1, 2学期に「漢漢チャレンジ」を、全学年とも年間6週間「漢漢朝自習週間」を設けて、実施した。	どの学年も、充実した取組となった。また、学習意欲を一層、喚起するため、「漢漢朝自習」「漢漢チャレンジ」の継続して実施する。		
			毎週の月・水・金に国・数・英を中心に課題を出し、家庭学習の定着を図る。「ワンプリデー」	3.6					どの学年も2学期より、「ワンプリデー」として、毎週の月・火・水の3日間、国語・数学・英語を中心に実施できた。	2学期からの「ワンプリデー」実施が、生徒の学習意欲の喚起と家庭学習の定着に効果が見られた。		
			定期考査前や夏季休業中にの質問教室を実施する。	2.7					夏季休業中に質問教室は、全学年とも取組ができたが、考査前などは3年生が中心の取組となった。	全学年が計画的に取組を行うことで、家庭学習の習慣につなげていく。		
			チャイム席・学習規律の確立を図る。	3.2					子どもは、学校で落ち着いて学習に取り組んでいると感じる。	3.3	チャイム着席は、全学年とも取組の成果が表れていた。学習規律の確立では多少、課題が残った。	学習規律においては、道具忘れや授業態度の面で課題が残った。学習規律の一層の確立を図る必要がある。
			生徒が授業に興味・関心を持って積極的に取り組めるよう工夫・改善を行う。	3.2					学校は、子どもの学力を高めようと工夫・努力している。	3.0	授業は、工夫されていて分かりやすい。	2.9
2	心の教育の充実を図る。	人権教育の充実を図る。	全学年、講師を招聘しての講演会を実施する。	2.9	子どもは、相手の気持ちを考えた言葉づかいや態度ができています。	3.1	相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度ができています。	3.2	全学年「ネットいじめについて」、1年SYD出前講演「貧困と共に生きる子どもたち」等、講師を招聘し、生徒の内面に訴えかける講話を実施することができた。	生徒の感想からも、講演会については効果があったので、次年度も生徒の実態を考慮した上で講師や講話の内容を精選して講演会を実施する。		
			生徒対象の人権教育講演会を実施する。									
		学校環境の整備を図る。	掃除学習の徹底、美化コンクールを充実の充実を図る。	2.6	学校は、施設や設備などの教育環境の整備に努めている。	3.1	学校の施設を大切にし、清掃活動にも、しっかり取り組んでいる。	3.4	2学期予定していた美化コンクールを3学期に延期して1, 2年生で実施した。	美化コンクールについては意欲的に実施できた。しかし、毎日の清掃活動等、自らすすんで学校の環境を整えるとともに、学校をきれいにしようとする心を育てる取組は継続した指導が必要である。		
			豊かな人間性を育む食育に取り組む。	2.7					配膳・片付けや食事時のマナーについては全職員で指導した。	配膳・片付けや食事時のマナーについては継続した指導が必要である。		
	健康保持・増進と食習慣の定着を視点に、昼食指導や食に関する内容の放送、栄養掲示板の記入を行う。	3.2					健康保持・増進と食習慣の定着を視点とした、昼食指導や食に関する内容の放送、栄養掲示板の記入を毎回行うことができた。特に食に関する内容の放送については、放送部と連携して実施した。	食に関する内容の放送については、放送部と連携して実施したため、ランチタイムの放送として定着し、食に関する指導としての効果が上がった。				

		学校行事の見直し及び生徒と触れあう時間の確保を行う。	教育相談は1・2学期の2回、クラスマッチは各学年・年間2回、及び長期的視野に立った部活動の活性化を行う。	3.3					1, 3年生は年間2回、2年生は年間1回、クラスマッチを実施した。教育相談は、年間2回予定通りに実施できた。	クラスマッチ, 教育相談ともに充実した取組となった。新学習指導要領の完全実施に向け、行事を精選しながらも、行事を実施する際には教育的効果を考え、時間設定を行う必要がある。
		総合的な学習の時間における体験活動を充実する。	1年生のふれあい合宿、2年生の農泊体験学習・職場体験、3年生の修学旅行等の体験的な学習を充実する。	3.7					1年生は5月に、2, 3年生は6月に予定通りに実施することができた。	3年生については標準時数を若干上回っていたので、全学年ともに計画・実践の際に時間を精選し、効果的に取り組んでいくことが必要である。
3	生徒指導の徹底及び特別支援教育の充実を図る。	生徒の心をつかんだ生徒指導の推進と危機管理意識の徹底を図る。	Q Uテストやいじめアンケートから、生徒の実態を把握するとともに、講師を招聘して職員研修会を実施し、有効な活用を図る。	3.1	子どもは、毎日楽しく安心して学校に行っている。	3.4	毎日楽しく安心して学校に行っている。	3.6	Q Uテストを6月に、いじめアンケートを毎学期各学級で行った。今年度は、講師を招聘して職員研修会を実施することはできなかった。	Q Uテストやいじめアンケートを各学級で行うことで、学級経営のための有効な資料が得られ、日常生活指導に活用できた。今年度は、講師を招聘して職員研修会を実施することができず、さらなる有効な活用を図ることはできなかった。
			問題行動に対し、職員集団が一丸となり、組織的に対応できる体制を確立・推進する。	3.3					学校全体及び各学年で発生した問題行動に対し、全職員が一丸となり、組織的かつ計画的に対応できた。	問題行動に対し、全職員が一丸となり、組織的かつ計画的に対応したことが、早期解決につながった。今後、生徒理解を図ることで、積極的な生徒指導も充実する必要がある。
		基本的な生活習慣の定着を図る。	生徒指導部や生徒会生活委員会を通して、身なりの徹底を図り、場に応じたあいさつができるようにする。	2.9	子どもは、礼儀正しくあいさつでき、身だしなみも整っている。	3.2	礼儀正しくあいさつができ身だしなみも整っている。	3.4	生徒指導部や生徒会生活委員会を中心に学年集会や日ごろの生活の中で、服装や頭髪の指導、あいさつの指導を行った。	学年集会や日ごろの生活の中で、服装や頭髪の指導、あいさつの指導の効果は上がってきている。さらに進路指導との関わりの中で、継続した指導も必要である。
	特別支援教育を充実する。	生徒一人一人の実態に応じた日常生活指導及び学習指導を行う。	3.1					全職員が生徒個人の実態に応じて日常における生活指導及び各教科等における学習指導を行った。	今後も、さまざまな場面で生徒とふれあう中で、実態の早期把握に努め、実態に応じた日常生活指導及び学習指導を行う。	
4	保護者及び地域との一層の連携強化を図る。	地域に開かれた学校を推進する。	小若山笠への職員及び生徒の積極的参加を図る。	3.1	学校からのプリントや通信などで、学校の様子が分かる。	2.9	学校からのプリントや通信などを家族にきちんと渡している。	3.3	男子生徒の参加率が約30%という現状にある。	地域や家庭と連携しつつ、教職員自らも参加する中で、地域文化としての位置づけ等を訴え、進めていく必要がある。
			学校開放週間や授業参観の内容を充実するとともに地域への開放を推進する。	3.1				11月の学校開放週間には500名を超す多数の参加があった。	11月の学校開放週間だけでなく、学校の取組・実態を知っていただくためにも、各学年の行事や授業参観等を広報し、より充実した開放を推進する。	